

「水」への感謝

山添村立山添中学校

二年

福井 稀晟

私達が生活をする上で「水」は必要不可欠なものだ。たった数時間の断水でも困るし、断水していると分かっていても水道のコックを上にあげてしまい、手を伸ばしている。この水道のコックを上げるだけで水が出てくる生活が当たり前だと思っただけで水が改めて考えてみると、私の家だけでなく、日本中の家々に十分な水が届いているということに、今更だが気がついた。

発展途上国では慢性的な水不足に常に悩まされている。水道水が飲める国は、世界で十ヶ国ぐらいだと言われている。私達の住んでいる日本はありがたいことにその世界でたった十五ヶ国のなかの一つの国である。

私は時々見かけるのだが、その貴重な水、しかも飲める水道水を食後の歯磨きをする際水をだしっぱなしにする人がいる。三十秒出

しっぱなしにするだけで、約六リットルの水を使っている。

そのような事を考えるうちに、水を十分に確保する為に「ダム」があるということに気がついた。私の住んでいる山添村には大きなダムが二つある。近隣の市町村にも有名なダムがあり、小さい頃よりダムがあるのが普通の事で特に何も思っていなかったが、このダムのおかげで私達の生活に必要な水が確保されているということになる。

ダムとは、そもそもどういう物なのだろうか？小さい頃からダムが身近にある私にとつて「水を貯める場所」としか認識がなかったが、調べてみると、「水を貯める」だけでなく、河川をせき止め、発電し、大雨や台風などによる洪水防止の為のようだ。

この施設を私の住んでいる所に建設する話が、私が産まれる十年程前に出たそうだ。こ

の時に出てきた案は地区を横断する県道よりも北側地区はそのまま残り、南側地区はダムになる為に立ち退きになる予定だった。このダムが建設されていたら、南側地区に家がある私は、今、山添村に住んでいないことになる。この話は住民の反対により無くなったそう。

私はこの話を聞いたとき、何とも言えない気持ちになった。なぜなら、私は水道のコツクを上げると水が出る生活を手離したくない。でも、その為の水源を確保しているダムは建設当初、私の住んでいる所と同じように住民の反対があっただろう。最終的にそこに住んでいた人々は、立ち退き、住んでいた場所はダムになり、私達の生活に必要な水を確保してくれている。一方で私達の地区はダムにならず私を始め、住民は当然のように水を使い生活をしている。

私達が何気に生活をしている中に「ご飯を食べる」、「お茶を飲む」、「トイレに行く」、「お風呂に入る」、「洗濯をする」というのがあるが、一日の生活だけで、一体、どれだけ多くの水が使われているのだろうか。

何も思わずに使っていた水だが、その水のために何十年と住んでいた所を奪われ、「ふるさと」すらダムに変わってしまった悲しい思い出の上に、私達の生活に必要な不可欠な水が確保されているということに気がつき、申し訳ない思いと、ありがたいという感謝の気持ちを抱いた。

私は、私達が使う「水」にはたくさんの方が詰まっていると言うことに常に感謝し、「水」という資源を大切にし、守っていきたいと思う。